

東郷村報

第103号

昭和35年6月10日
発行所
宮崎県東臼杵郡
東郷村役場
日向市富高
安藤印刷所
電話 64番

東郷村国民健康保険診療所

開設六周年を迎えて

東郷村長 黒木松美

東郷村国民健康保険診療所は、村民の傷寒疾病を治療して健康を保持増進する目的をもって、昭和二十九年六月に開設せられ本年で六年を迎えたのであります。当時は村内に医療施設が乏しく、村民の健康を守るに支障を来たし、特に流行性感冒や伝染病の多発時とか急患の発生した場合に、大なる支障を来し、その為尊い人命をもなくする様な事態に立到る様な事も憂慮され、村民各位の要望が高まり現在の様な思い切った立派な施設を築くに至ったのであります。

皆でお互の健康をまもるための公衆衛生の効果を上げ、又医療負担を軽減するために国民健康保険事業の充実と、多額の経費を投じて施設された村立診療所今巷に曲角という言葉が盛

云う部落を視察致しました。此処も枕崎に似通った経営耕地面積で田畑平均の四反五畝とのことであります。が吹越部落は経営耕地面積田畑合せて六反で一戸当たり五畝とのことで即ち細い農家は勿論の事細い農家の養豚は大豆を利用して牛の肥育をやつて居り肥育基礎牛は老廃牛肥育と若令牛肥育の二本立てで特に若令牛肥育の年収入は一億五千万円程度の収入の中核を吹越部落三十戸が成して居る由如何に熱心に努力して居るかが窺われます。

同地での説明によれば昔は古家は吹越に売れとまで云われた位貧困な部落が今では肥育、輸送、園芸、煙草等の現金収入によつて殆んどの家が新築され面目をな経営を続けることに

三日前の視察を通じて学んだことは台風常襲地帯と云う宿命的条件更に消費地より遠い等の悪条件を環境も去ること乍ら見事克服して防災管農の実を挙げ堅実な経営を続けることに

枕崎では農家一戸当たり平均経営面積四反六畝然も水田は僅少で殆んど大半の農家は消費農家で水稲は年間同地の二余を他より移入して居る状態であり我々から見れば全く不利な経営状態であると想像した次第であります。が此の悪条件を克服して細地を最高度を利用して畜産を主軸とする経営で紅茶、煙草、甘藷、菜種等を栽培して安定した農家経営をして居ることに感心致しました。特に鹿兒島県の特産とも云べき薩摩芋(甘藷)を利用して同地の海域で獲れる鱈のアラをうまく抱き合せての養豚は枕崎の特産であり枕崎のパークンヤとして全国的にも著名であります。年間仔豚七千頭を産し遠くはベトナム辺りまで移出して居るとのことです。其の養豚農家の大半が中農以下の農家であることに我々東郷村民も注目すべき点があると思ひます。

養豚農家飼育割合は一戸当たり平均一、三頭で全国平均に比して倍の飼育頭数を擁する。現収入は八万円程度のことであり同市農林課生駒

木材の需要と造林
本村は最近毎年約三〇〇町歩が造林されております。この反別が毎年増殖されたとしても東郷村の山林は七、〇〇町歩です。現より補助金まで出して奨励するの植林地二、六〇〇町歩を

需要がどうなるかを心配して造林を止む傾向にありまして。色々な資料により今後の木材の需要について考えてみましょう。次の表を見て下さい。木材の消費がどんな形で伸びて来たかが判ると思ひます。

東郷村の皆様へ
(アメリカ便利)
海野光洋



先進地視察報告書
清水徳男

区	分	製材	紙パルプ	合板	繊維板	削片板
昭二二	二二六、五	二五、七	三、〇一五	一、八六〇	二〇	
昭二一	二九〇、三	四九、七一一	一一、二〇〇	二、三三〇	一、一〇一	
昭二〇	三、八	五、五	十二、八	八、一	六、一	
昭一九	三、八	五、五	十二、八	八、一	六、一	

山
朝空に黄雲たなびき
朝霧は空にのぼりて
朝霧は空にのぼりて
朝霧は空にのぼりて

牧水
鳴けば夏日かなしも
真青き峡間ひとりこ
風は赤ら松峰越しの
四方の峰のなびきつ

国民健康保険に致しまして
もその根本となるものは、
何と申しましても相互扶助
の精神であります。お互が
健康をまもるためとは、只
自分の病氣や傷のみでなく

過般、防災管農振興協議会
委員の一員として防災管農
の実態と曲り角に來たと云
われる零細農家の見学のた
め九州の西南端鹿兒島県薩

私達はひと昔前の新聞紙が
今の三分の一の分量もなか
りた事を覚えています。尺
紙が木材で作られることは
御承知の通りですから下の
表を見れば紙の消費が、即
ち木材の需要が、急力一ぶ

昭和二十六年
二九、二ポンド
昭和二十八年
四四、四ポンド
昭和三十年
五三、〇ポンド
同じ昭和三十年の消費を各

文芸
五月号より
ことごとく焼払い向つ山に
この里に再び訪むる日のあるや
春の陽の暖かくさす老杉の
れんげ菖麦の田んぼのその
早期水稲の苗は伸びたり

